



俳句TVミニ講座 入門編

第1章 俳句の基礎



ここでは俳句を詠むための基礎を学びます。

A background image showing a group of students in a library. A young man is smiling and looking at a laptop, while a young woman with glasses looks on. Bookshelves filled with books are visible in the background.

第1章 ～俳句の基礎～

第1章では、俳句の基礎として3つの柱を立てて説明してゆきます。



3つの柱とは

「凝縮性」「具象性」「普遍性」

この三本柱が俳句の基本です。

第1章 ～俳句の基礎～ No2 具象性

俳句の三本柱の一つ「具象性」は俳句の句材探しに重要な柱です。

具象性とは？

俳句は心のスケッチですから
詠みたい句材に焦点を絞るた
めに具象性が必要です。

具象性がある俳句は解りやすく目に浮かびます。句材が具体的に形にあらわれてくると作者の想いも解りやすくなります。

例句

星空へ店より林檎あふれをり 橋本多佳子

この俳句の句材は「林檎」です。リンゴは秋の果物で形が目に見えるはっきりとした具象性のある言葉です。

句の解釈

季語は「林檎」秋。

形のある具象的な言葉は季語の林檎です。そして「店」というものも眼に見える形がはっきりあります。果物屋さんやスーパーの入り口、もしくは市のような店先を思い浮かべます。林檎が沢山積んである夜の星空の下に秋の澄んだ空気を感じます。



それでは次回は～俳句の基礎～
No 3「普遍性」です。
お楽しみに！